

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

事務事業の名称	「しまねの農産物」安全・安心システム推進事業	
目的	(1) 対象	生産者、農業団体
	(2) 意図	農業生産工程管理（GAP）の推進により、農林産物の生産段階における安全性の確保を図るため、GAP指導員の育成を図るとともに、生産者・産地に対する効率的な指導を実施し、GAPガイドラインに則したGAP（美味しまね認証）の実践農家数を拡大する。
事業概要	GAPの推進を図るため、指導員の養成を行い、生産者や産地に対して、導入を働きかける。 また、農林水産省ガイドラインに準拠したGAPの取り組みと安全で美味しい島根の県産品認証制度への誘導を図る。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	GAP指導員数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		98.00	103.00	108.00	113.00	
式・定義	JGAP指導員基礎研修受講者数		実績値	93.00	103.00	114.00	126.00		
			達成率		105.10	110.70	116.70		%
指標名	GAPガイドラインに則したGAPの実践農家数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		56.00	64.00	72.00	80.00		件
式・定義	美味しまね認証取得件数		実績値	48.00	56.00	58.00	62.00		
			達成率		100.00	90.60	86.20		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,055	1,710
うち一般財源 (千円)	86	855

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・「GAP指導員」は目標を大きく上回っており、生産者・産地への指導体制強化が図られた。
- ・「GAPの実践農家数」は5件の増加となった。美味しまね認証の団体認証では、構成員数の増加の動きがあり、さらに高度な取り組みにつながった。
- ・団体認証は、既取得産地以外での動きが弱い。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・JGAP指導員基礎研修を通じて職員のスキルアップが図られた。
- ・GAPガイドラインに則したGAPの実践農家数（美味しまね認証取得件数）は5件増加した。
- ・研修会、パンフレットなどを通じてGAP手法の啓発を行い制度周知を図った。
- ・関係団体への研修会に出席し、制度の解説などを行った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・団体認証は、既取得産地以外での動きが弱い。

②困っている状況が発生している「原因」

島根県GAP「美味しまね認証制度」の取り組みに関して営農指導員等の指導者の理解は深まりつつあるが、産地戦略としての制度活用の検討や生産者への働きかけなど、生産団体としての具体的な動きは弱く、面的広がりにつながっていない。

③原因を解消するための「課題」

J A団体等関係機関との連携による生産者への「美味しまね認証制度」の周知徹底
GAPに取り組んでいる産地への、取組内容の高度化に向けた支援

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 1 人材育成をさらに重ねていく
- 2 産地としての制度導入を図るため、関係機関などと連携を深めていく

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）